

「持続可能な地域コミュニティの実現に向けたシンポジウム」の開催結果

1 開催日時

令和6年2月4日（日）14時から17時

2 開催場所

広島国際会議場「ダリア」

3 参加者数

会場：約300名（うち、ワールドカフェ：100名）

WEB参加：約160名

4 プログラム

時間	内容
14 時～	○開会 ○市長挨拶（3分）
14 時 05 分～	○ひろしまLMOロゴマーク発表セレモニー（10分）
14 時 15 分～	○基調講演（45分） 【演題】 みんなでつくる 広島型地域運営組織「ひろしまLMO」 【講師】 島根大学 教育学部 教授 作野 広和 氏
15 時～16 時	○トークセッション（1時間） 【テーマ】 「自分たちのまちは自分たちで創り、守る」 ～「共助」の精神に基づく市民主体のまちづくり～ 【パネリスト】 コミュニティデザイナー、studio-L 代表 山崎 亮 氏 ひろしまLMO大林学区地域運営委員会会長 坊 聡彦 氏 フリーアナウンサー、元 TBS アナウンサー 栢田 絵理奈 氏 広島市企画総務局長 阪谷 幸春 【コーディネーター】 リエゾン地域福祉研究所代表 丸山 法子 氏 【コメンテーター】 島根大学教育学部教授 作野 広和 氏
16 時 10 分～	○ワールドカフェ（45分） 【テーマ】 ①あなたの暮らしに地域コミュニティは必要ですか？ ②地域コミュニティ活動に楽しく参画するためには？ 【ファシリテーター】 リエゾン地域福祉研究所代表 丸山 法子 氏
17 時	○閉会 企画総務局長挨拶

5 ひろしまLMOロゴマーク及びロゴタイプ

本市では、「ひろしまLMO」に対する市民の認知度を高め、その普及・定着を促進するため、ひろしまLMOのロゴマークを作成することとし、その制作を広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科視覚造形分野研究室（担当教員：納島正弘教授）に依頼した。その後、2年生の学生4名からデザイン案が提案され、本市による選考を経て、以下のとおり、ロゴマーク及びロゴタイプを決定した。

(1) ひろしまLMOロゴマーク



【デザインのコンセプト】

「もやい結び」という結び方に躍動感を持たせたイメージでデザインした。催合（もやい）とは複数の人間が共同して作業や事業を行うことであり、その土地の人たちがお互いに持てる力で協力し合い、それぞれの地域を活性化させることで、その集合体である広島市が豊かで住みやすいまちになってほしいという願いや、催合で社会を繋げる意味を込めた。

【制作者】

広島市立大学
芸術学部デザイン工芸学科視覚造形2年
池田 優菜 さん

(2) ひろしまLMOロゴマークとロゴタイプの組み合わせ



【デザインのコンセプト】

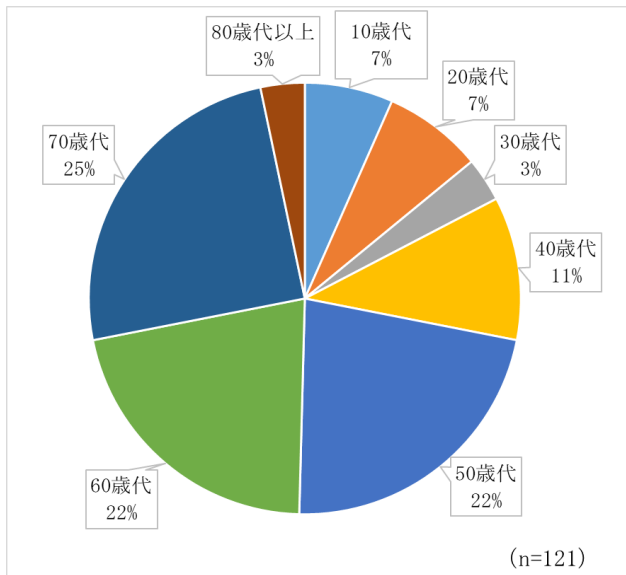
「L」と「M」と「O」のつながり目で、現在から未来への「つながり」を表現した。ひろしまLMOが地域コミュニティを現在から未来につなげてほしいという思いや、次世代を担う子ども達に広島市の未来を切り拓いてつないでほしいという願いを込めた。

【制作者】

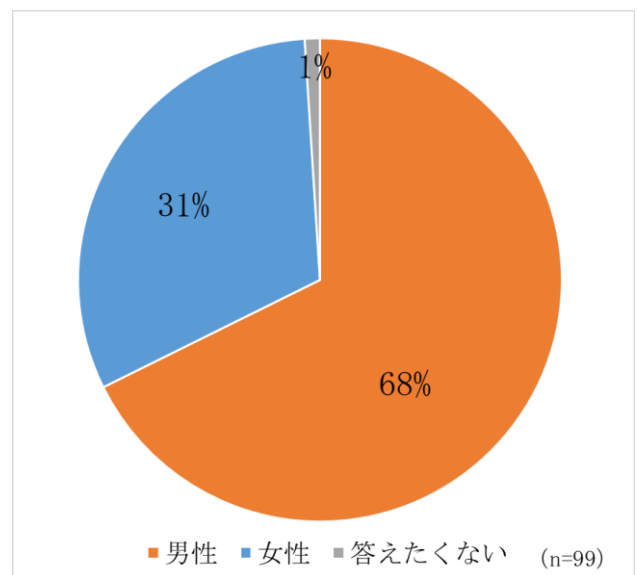
広島市立大学
芸術学部デザイン工芸学科視覚造形2年
山本 千夏 さん

6 参加者アンケート集計結果（アンケート回答者数 124 人）

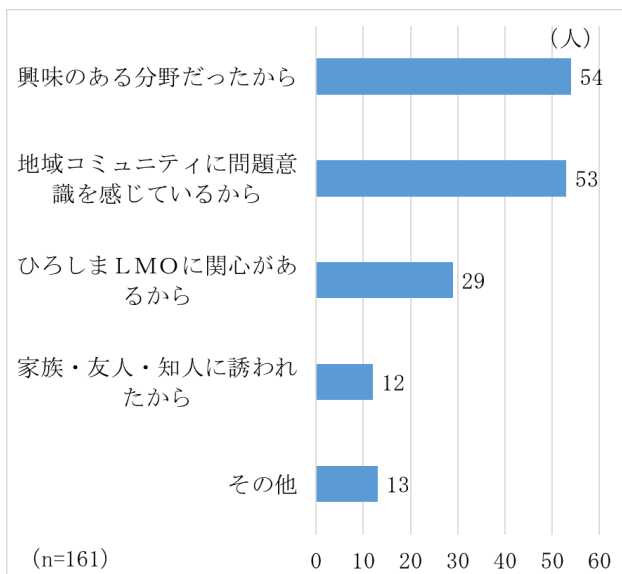
(1) 参加者の年齢



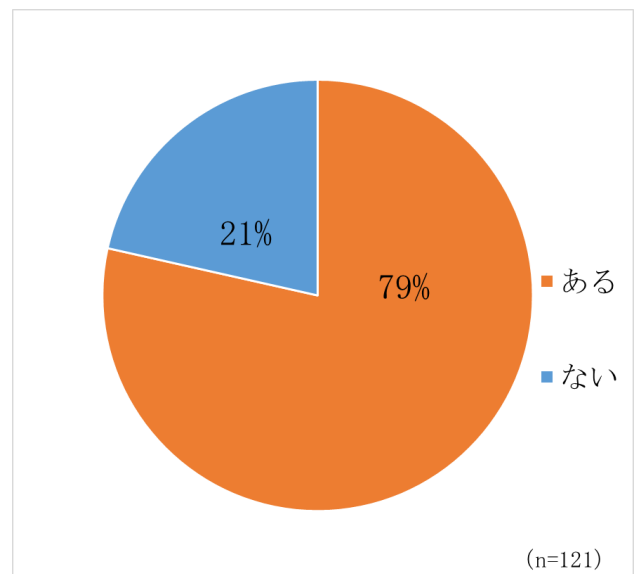
(2) 参加者の性別



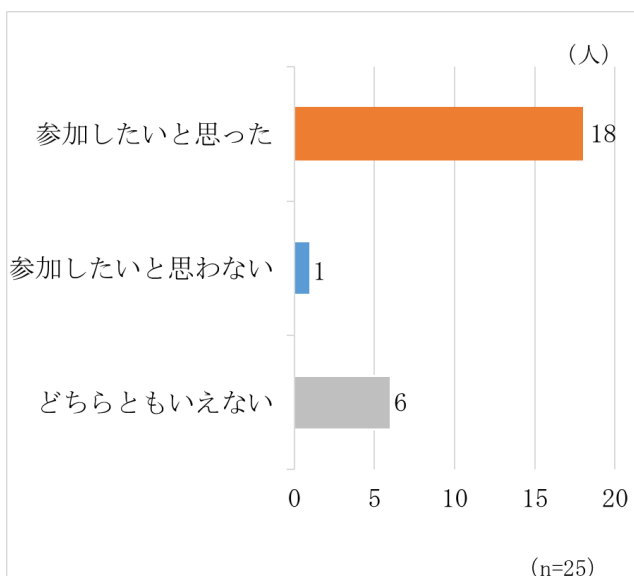
(3) シンポジウムに来場した理由（複数回答可）



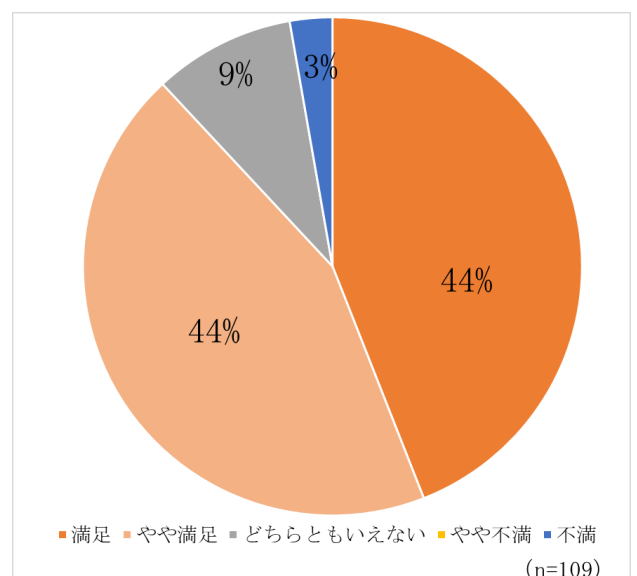
(4) これまで地域活動に携わったことがありますか



(5) シンポジウムに参加して今後地域活動に参加してみたいと思いましたか（(4)で「ない」と回答した方）



(6) シンポジウムに対する満足度



(7) 自由記載の主な意見

- ひろしまLMOを立ち上げたい気持ちが強くなった。
- 組織を作ることに焦り過ぎず、話合いの場などを設け、考えを深めることが大切だと思った。
- 多様な主体の連携、特に企業や大学などの巻き込みが重要だと感じた。
- ひろしまLMOは行政の下請けではないということが分かった。
- 広島のことをより好きになること、広島に住み続けたいと思うことなど、ひろしまLMOは広島に沢山の利益をもたらすことを改めて知ることができた。
- ひろしまLMOが、市の転出超過の増加に歯止めをかけるための方策の一つになると思った。
- 小さなふれあいから始めることの大切さを実感した。
- よそ者も大切な資源であることを再認識した。
- 顔の見える関係づくりの大切さを感じた。
- 「自発的な想い」をどれだけ上手に取り込んでいくか、本質的なことを皆で理解することが大切だと思った。
- 一人一人の楽しみ、得意なこと、生きがい、やりがいとなることを続けていくことが結果的に誰かのためになったり、地域の困りごと解決のきっかけになると思った。
- 地域コミュニティは日々の暮らしを充実させる上で、とても大切だと改めて感じた。年齢関係なく、みんなで形成することで人生を豊かにできると思う。
- 海側と山側の交流の場など自治体を超えたつながりも今後あってもよいのではないかと感じた。
- 多世代・多文化・多業界、互いの共生や、縦型ではなく、横や斜めも含めた立体的な関係づくりが大切だと感じた。
- ずっと住んでいると当たり前になってしまうが、今までずっと地域で過ごしてきた方々の力と新しい参加者（企業、学生など）を巻き込み、みんなで地域への愛着を築いていきたいと思う。

- 地域コミュニティの多様性を担保できるシステムを作らないと、形骸化してしまい成功しないと思う。
- ひろしまLMOについて、市民に十分には仕組みが理解されていないようで、資金の使い方も工夫が必要だと感じた。
- ひろしまLMOには若い世代の参加が必要だと思うが、毎日の暮らしに精一杯でなかなか参加できそうにないと感じた。
- 旗振り役がいないとまとまらない。
- 取組が前進していない地域の話や失敗例も聞きたかった。
- 考え方はわかるが、抽象的な話が多く、具体的にはどうしたらいいのか分からない。
- 地域コミュニティに参画したいが、どうすればいいのか分からない。